

第3版について

2017年に初版、2018増補版と続いた『ちょっと気になる医療と介護』の重版出来の話が届いたので、第3版にすることにしました。というのも、その本にあった「第16章 手にした学問が異なれば答えが変わる」という一つの章は、2018年刊行の『ちょっと気になる政策思想』（2020年に第2版刊行）に発展したりと、様子が進展したからです。状況も大きく変わってきました。当時立ち上がったばかりの地域医療連携推進法人は、現実動いている制度へと発展し、新型コロナウイルスを機に、2013年の「社会保障制度改革国民会議」で示されていた改革の方向性——病院完結型の治す医療から地域完結型の治し支える医療へなど——の正しさが再確認されるようになりました。したがって、あの国民会議のことを、おそらく世の中で最も詳しく書いていた本書の価値も高まり、それが重版出来へとつながっていったのかもしれない。

『ちょっと気になる医療と介護』は、第1章に「働くことの意味とサービス経済の意味」を置いて、サービスの生産性なる言葉に混乱と間違いがあるために、経済政策のあり方が歪められていることを書いていました。当時は、医療・介護の本なのに、なぜそうした章からはじまるのかと訝しがられる感もありましたが、その後、「生産性」という言葉を巡って、成長戦略などの中でも世の中の議論が盛り上がっていき、第1章の価値が見直されるようになってきました。たとえば、岸田内閣が立ち上げた全世代型社会保障構築

第3版について

会議の下に公的価格評価検討会などが作られ、委員になった僕がそこで話していたことは、会議に参加していた人や議事録を読んだ人たちからは相当に新しくかつおもしろく聞こえたらしいけど、そうした話は、アダム・スミスからはじまる第1章がベースだったわけです。

この第3版では3つの章を加えています。「第15章 生産性の考え方と福祉分野で留意すべきこと」(対談)、「第16章 プライマリ・ケアって何?」(鼎談)、「第17章 地域医療連携推進法人って何?」(鼎談)です。頁数節約のために、初版、増補版の「はじめに」「おわりに」、そしていくつかの知識補給は外しています。それでも、厚くなってしまいました。まっ、いいか。

おっとそうそう。第3版でなくした章にあった知識補給の中には、残しておいたものがありますので、ここに紹介しておきます。

ジャンプ 知識補給 社会保障・税一体改革——世間の無理解さって、
なんだかねえ…… 338 頁へ

初版の出版から6年を超え、この第3版は、昔のことも今のことも詳しい本になっています。未来のよりよい医療と介護のために、是非ご一読頂ければ……なんてね。

では、よほどお手すきの時にでも、ご笑覧を!